

# 報道関係者と民博との懇談会

# 話題一覧

2023年11月16日(木)15:30~17:00

懇談会

## 1. 挨拶

— 岸上伸啓 (副館長)—

## 2. ニュースリリース

●みんなの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

— 園田直子 (議長)—

## 3. みんなの映画会

[詳しくはこちら](#)

### 『はちどり』(みんなのワールドシネマ)

ソウルの団地に家族と暮らす14歳の少女ウニ。家庭で居場所を見つけられず、どこか空虚な思いを抱える彼女の日常は、塾の新任教師ヨンジと出逢ったことで、すこしずつ変わってゆきます。思春期の少女の揺れる心と、変わりゆく1990年代のソウル市民の生活を、透明感をもって繊細に描き出

日時 2024年1月27日(土)

13時30分~16時30分 (13時開場)

会場 みんなのインテリジェントホール(講堂)(定員350名)

参加費 要展示観覧券(イベント参加費は不要)

解説 諸昭喜(本館 助教)

司会 菅瀬晶子(本館 准教授)

※事前申込制(本人を含む2名まで)、先着順

※事前申込の方へ、当日11時から本館2階会場前にて展示観覧券を確認後、入場整理券を配布します。

※受付期間中に定員に満たない場合のみ当日参加を受け付けます。



©2018 EPIPHANY FILMS. All Rights Reserved.

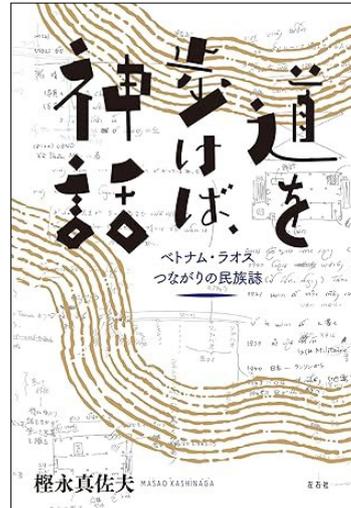
— 菅瀬晶子 (超域フィールド科学研究部 准教授)—

## 4. 最新の研究紹介

[詳しくはこちら](#)

### 『道を歩けば、神話 — ベトナム・ラオス つながりの民族誌』

(榎永 真佐夫 著/左右社)



— 榎永 真佐夫 (超域フィールド科学研究部 教授)—

## こども向け観覧支援ツールが第17回キッズデザイン賞を受賞

この度、国立民族学博物館では「自由な発想、考える力を育む、博物館のこども向け観覧支援ツールの開発と活用事業」を対象に、第17回キッズデザイン賞を受賞しました。今回受賞した観覧支援ツールは、広くてモノの多い展示場の中で過ごすこどもたちが、迷うことなく、モノをじっくり観察できるよう開発された「こどもパンフレット」と「アクティビティ・カード」です。どちらも展示場入口にて無料で配布しているもので、だれでも気軽に手に取っていただけます。

また、本館のホームページでもダウンロード可能です。



— 岡田 恵美（人類基礎理論研究部 准教授） —

## 6. 人間文化研究機構 共創先導プロジェクト(共創促進研究)

「学術知デジタルライブラリの構築」国立民族学博物館拠点 (X-DiPLAS) 関連

「写真データベースを活用したデジタルストーリーテリングで研究人生をふりかえる

— 杉村和彦『熱帯アフリカ焼畑農耕民研究』コレクションを事例として」

詳しくはこちら

中央アフリカのザイール（現コンゴ民主共和国）や東アフリカのタンザニアなどで、アフリカ的な農業や農村社会の特性、ひいては「人間にとって農業とは何か」という根源的な問いを長年にわたり追究してこられたフィールドワーカー・杉村和彦氏の写真データベースを例に、特に1986年～1991年にかけてザイールの焼畑農村で撮影された写真の整理を進めつつ、それらを素材としたデジタルストーリー（「1986-1991 追憶のザイール、焼畑の村」）の制作をすすめてきました。今年度いっぱいまで定年退職を迎えられる杉村氏の、研究人生的一幕をふりかえる作品です。熱帯アフリカ焼畑農村の世界に思いを馳せつつ、こういった作品づくりが、研究者自身やソースコミュニティ、またあるいは私たちが生きる社会に何かを還元し得るのかを考えてみたいと思います。



日時 12月16日(土) 14時～17時 (13時開場)  
会場 本館 第4セミナー室 (定員：対面50名、オンライン100名)  
参加費 無料  
解説 小林直明 (本館 グローバル現象研究部 プロジェクト研究員)  
講演 杉村和彦 (福井県立大学学術教養センター 教授)  
参加方法 事前申込制 (申込期間：12月15日(金)正午まで)、先着順

— 小林 直明（グローバル現象研究部 プロジェクト研究員） —

※その他の配布資料 外来研究員受入一覧（資料6）



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

お問い合わせ

国立民族学博物館 総務課 広報・IR係

電話:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail:koho@minpaku.ac.jp